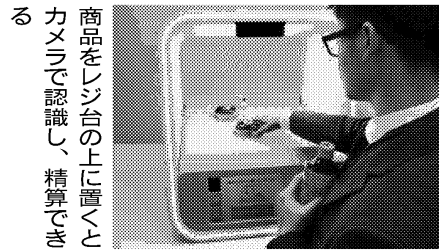


# 買い物レジにAI

## サインポスト 商品自動認識し精算

金融機関向けシステム 3月に発売する。商品を開発のサインポスト（東京・中央、蒲原寧社長）は人工知能（AI）を搭載した買い物レジ「ワンダーレジ」を開発した。

レジの待ち時間短縮や省力化といった効果があるという。コンビニエンスストアに売り込む。



電気通信大学の柳井啓司教授と連携し、画像処理とディープラーニング（深層学習）と呼ばれるAI技術を用いた。2020年2月までに3万台の販売を目指す。

レジの台に商品を載せると、3台のカメラで複

カードや現金決済にも順次対応する予定だ。買い物客の年齢や性別など従来のPOS（販売時点情報管理）レジと同様の情報も入手できる。既存のレジと比べ設置スペースが半分で済むほかに、会計時間の短縮につながる。客はディスプレイで内容を確認し電子マネーで決済する。クレジット

年齢制限のある商品には対応しない。既存のPOSレジと併用して無人レジを設置することで、1店当たりの店員数を2人程度減らせるとみている。導入費用は台数によって変動するが、装置を5年で償却する計算で「パートの人件費の半分以上で済む」（同社）と